

アロカの超音波診断装置と骨塩量測定装置がグッドデザイン賞を受賞

[2008.10.09]

アロカ株式会社（本社：東京都三鷹市牟礼6-22-1 社長：吉川義博）は、以下2製品について、財団法人日本産業デザイン振興会主催の2008年「グッドデザイン賞」を受賞いたしました。

アロカは”illuminate the change”をブランドステイメントとして掲げて、より良い社会の発展に貢献する製品づくりに取り組んでいます。

その実現のためには、デザインは最も有効な手段の一つとして考え、検者・被検者・環境を中心とした視点で製品開発をして参りました。

今回、これらの取り組みが2製品の受賞という形で評価していただきました。これからも、社会の変化を先取りし、人や環境に優しい製品を作り続けます。

超音波診断装置プロサウンドアルファ7

（医療機器認証番号：219AABZX00237000）

細部への丸みを帯びた形態とともに小型化、軽量化を実現し、機器の色彩計画とともに被検者にとっても安心できる機器としてまとめられています。

超音波診断では、汎用型の装置であるがゆえに被検者から得られる体内情報の処理には検査内容、検査部位とも多様であり操作習熟の困難が予想されます。それら操作性に対するタッチパネルや操作画面への取り組みを評価。

同製品の詳細説明ページへ



骨塩量測定装置 DCS-600EXV

（医療用具承認番号 22000BZX00372000）

新型センサによる精度向上、測定時間の短縮、小型軽量化という命題に対して、やわらかな形状で包み込み、被検者の心理的ストレスの軽減をしている点、特に腕の挿入を自然に測定部へと促すなど、使いやすさへの配慮がなされている事を評価。また、従来、被検者と検者共に負担となっていた、測定台に置かれた腕の位置、角度、回旋などの複雑な



変動要因を、本装置が短時間で自動的に認識するための取り組みと解決方法も評価。
同製品の詳細説明ページへ

<アロカ株式会社概要>

アロカ株式会社は超音波診断装置を中心とする医用電子装置、放射線測定器を中心とする汎用分析装置および検体前処理装置を中心とする医用分析装置の3事業を核とする電機メーカーです。アロカが世界に先駆けて商品化した血流をカラー表示するカラードプラを含む超音波診断装置は日本を含む世界各国で活躍しており 2006年12月に世界で初めて超音波診断装置の累計生産台数20万台を達成しました。また国内において放射線測定装置および検体前処理装置のトップメーカーです。

グッドデザイン賞とは

「グッドデザイン賞」は1957年に通商産業省によって設立された「グッドデザイン選定制度」を継承し、1998年より財団法人日本産業デザイン振興会の主催事業として運営される、日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度です。これまで50年以上にわたり、新しい時代の文化と生活を創造することを目的に「より豊かなライフスタイル」と「良いビジネス」を導く運動として展開され、のべ受賞件数は32,000件以上ののぼり、今日では国内外の多くの企業や団体が参加しています。